



おかしら 大城 俊夫さん プロフィール

●昭和34年沖縄県高身。慶應義塾大学・医学部卒業。慶應義塾大学附属病院形成外科入局後、米国シンシナティ大学留学を経て、静岡日本赤十字病院形成外科初代部長、国際レーザー治療学会初代会長を歴任。●現在、慶應義塾大学医学部客員教授、日本医用レーザー研究所所長、アメリカレーザー医学会評議員・財務担当、その他、産官学界のレーザー研究団体の要職を務める。

# 「形成外科の領域を越えた メデイカル・ソリューションを実現」

大城クリニック 院長  
慶応義塾大学医学部客員教授

大城 俊夫 さん

## レーザー治療 各種の痛み、花粉症治療でも効果を発揮

**各口** 本日は、日本のレーザー治療の第一人者であられる大城俊夫先生に、レーザー治療とはどういうものなのか、そして今後の可能性についておうかがいしたいと思っています。一口にレーザー治療といっても、私も素人には、なかなかわかりにくい部分もありますが、**大城** それでは、スライドを使って簡単に現在のレーザー治療に対する考え方についてお話ししたいと思います。レーザー治療には、強い光をあてる治療（日LST、高反応レベルレーザー治療）と弱い光をあてる治療（LILT、低反応レベルレーザー治療）があり

ます。この考え方は、私が作ったものでして、現在世界中で使われている用語です。専門的にいいますと、光子の密度を調節することで治療法の違いがでてきます。前者は赤、青、黒などのアザ、シミやソバカス、シワの除去、腫瘍や傷跡の除去など外科的治療に絶大な効果があります。また、後者は、各種の神経痛や痛み、花粉症、ケロイドやアトピー性皮膚炎、さらには婦人病や女性と男性の不妊症などの内科的治療にも効果を発揮するのが特長です。外科的な治療では、治療後ガーゼをつける必要がありますが、内科的な治療では

治療中の痛みもなく、ガーゼをつける必要もありません。

## 工業用を改造して誕生した、日本初の医療用レーザー

**谷口** いろいろ、勉強させていた  
だきありがとうございます。レー  
ザー治療が、素晴らしい可能性の  
あるものだと確信いたしました。  
ところで、大城先生は、どのよう  
な経緯で、レーザー治療を始めら  
れたのでしょうか。

**大城** 父が外科医で、兄弟も全員  
外科医や整形外科医でしたので、  
自分も当然医者になるものと考え  
ていました。

**谷口** どのような、お子さんでし  
たか？

**大城** 理数系はもともと好きでし  
たが、他の子と違うところは大工  
仕事が好きだったことです。小学  
校の頃から、カンナの刃を研ぐこ  
とができましたし、ノミで柱に穴  
を開けることもできました。昭和  
38年に慶應義塾大学医学部に日本  
で初めての形成外科が開講されま  
した。このように手先が器用でし  
たから、昭和41年にこの形成外科  
に入局しました。

**谷口** いつ頃から、レーザー治療  
を？

**大城** 昭和41年頃、米国の医学雑  
誌にレーザーの記事を見つけ、興  
味を持ったのがきっかけです。昭  
和48年に米国に留学し、アザのレ  
ザー治療を勉強しました。当時  
は工業用のレーザーしかなく、そ  
れを購入して日本で医療用に作り  
直しました。

**谷口** それはご自身で？

**大城** ええそうです。米国の工業  
用レーザーを購入し、自分で設計  
し直して医療用に改良しました。  
この機械を持って静岡県で初の形  
成外科の専門医として、静岡日赤  
病院に赴任しました。最初の1年  
間で私1人で400人を超える患  
者さんの手術をしましたが、同時  
にこの改良した機械を使った動物  
実験でレーザーの安全性、有効性  
を確認した後、実際の治療に使  
いました。

**谷口** それは、すごい努力ですね。

**大城** 実際にアザの治療をしてみ  
ますと、自分で手術するよりレー  
ザーの方が明らかに傷跡も残らず、  
きれいに治療ができたのです。そ  
のうちに静岡新聞や朝日新聞全国  
版でレーザー治療が紹介され、多  
くの患者さんが集まってくるよう  
になりました。とても私1人では  
対応できる人数ではありませんし、  
機械も足りなくなりましたので、  
東京に拠点を移すことにしました。  
東京では、クリニックに日本医用



【インタビュアー】  
全国経営者団体連合会理事長  
(社)産業関係研究所理事長

谷口 智治



レーザー研究所を併設させ、東大、慶大を始めとする5つの大学から工学部出身の卒業生を5人雇いました。

**谷口** それでは先生は、日本というより、世界におけるレーザー治療の草分けだったのですか。

**大城** とにかく装置を一から作らなければなりません。また、患者さんのアザの形や大きさに合わせて、機械を改良した時期でもありました。昭和54年頃、患者さんの胸の赤アザを治療しているうちに、赤アザだけでなく帯状疱疹後の肋間神経痛まで取れて消えてしまいました。レーザーがあたった部分の、光子の密度が高いところで赤い異常血管が破壊され、皮膚の深くに散乱した光子の密度の低い光が痛みを取ったことになりました。このようにして、アザだけでなく痛みやアトピー性皮膚炎の治療まで、治療の範囲は形成外科の領域を越えて広がっていきま

## 皮膚科、麻酔科、整形外科へのレーザー治療の応用

**谷口** ということは、大城先生は形成外科だけでなく、他の科の治療も手がけられているのですか？

**大城** 当初はアザのレーザー治療を中心にやってきましたが、その

過程で患者さんからいろいろなことを学びました。アザのレーザー治療をしているうちに、アトピー性皮膚炎が治ったことや、肋間神経痛が治ったということを教えてくれました。同じような症状が治ったという患者さんが数人続くと、ひょっとしてその病状や症状に効果があるのではと考えるようになります。知り合いの同じような患者さんを治療し、その効果を確かめることで、新しい治療がどんどん生まれまわりました。

**谷口** 今流行りのインフォームドコンセントを古くからやっていたのですか。

**大城** ええ、そうなのです。患者さんの声を大事にすることが、新しい治療法への第一歩だと考えています。このようにしてアトピー性皮膚炎、花粉症、眼瞼下垂、痛みの治療などが生まれました。

**谷口** 婦人病や不妊症の治療にも応用されているとうかがいましたか？

**大城** 閉経後のご婦人の腰痛症を治療していたところ、生理が再開した患者さんが二人ほどいました。この話を産婦人科の友人に話したところ、不妊症に効くのではないかとということになり、不妊症に対する新しいプロジェクトを3年半ほど組みました。その結果、平均30歳の女性で、平均15回の人工授精

精や体外受精をしたご婦人にレーザー治療をしたところ、74名中16名が妊娠されました。39歳の不妊症の妊娠率は全国平均で3.6%ですから、レーザー治療の効果がいかに優れているかわかりたいだけだと思います。また不妊症を治療している過程で、いろいろな更年期障害が治ることもわかってまいりました。

**谷口** 花粉症のシーズンですが、そのレーザー治療については？

**大城** 花粉症治療も2年前から行っています。209例の患者さんのデータから、1回のレーザー治療で84.2%の人が半年から1年有効で、53.1%の人が2年間有効という成績が出ています。

**谷口** 保険の適応はどうなっていますか？

**大城** アザの一部や花粉症の治療などに適応されます。くわしくは、専門の先生にご相談ください。健康保険は、効果があっても治療法が普及しない段階ではなかなか適応にならないものなのです。

## 無限の可能性を極めていく

**谷口** 大城先生の、今後の活動についてお聞きしたいのですが。

**大城** 私自身、レーザー治療の可能性について、常に驚かされ続け

さる1月26日(土)にサンケイプラザにて、大城俊夫先生と小川浩司先生(小川耳鼻咽喉科院長、日本アレルギー学会評議員)の両名を講師に迎え、「花粉症(アレルギー性鼻炎)の対策と最新治療法シンポジウム」が開かれた。パネルディスカッション・質疑応答・レーザー治療の実演などをまじえた充実した内容に、出席した聴講者の喚声とともに、驚嘆の声で盛り上がりを見せた。

なかでも、大城先生によるレーザー治療の実演の際には、即効性ある効果を間近にしたこともあって、聴講者はぞくぞくと座席から立ち上がって状況を観察するなど、驚きと賞賛をもって、あらためてレーザー治療の驚異的な効果を認識した。

(主催・産経新聞社/後援・日本レーザー医学会、日本レーザースポーツ医学会、国際レーザー医学会)



講演とともにご講演なされた大城俊夫先生

ているのです。今後は、そうした無限に思える可能性を追求して、患者さんたちのためにがんばっていきたくと思っています。そのためにも、レーザー治療の総合病院を一日でも早く立ち上げたいと考えています。

**各口** 確かに、レーザー治療の可能性は、もはや形成外科という狭い範囲には納まらない気がします。**大城** 医師の使命というのは、まず患者の「生命の維持」が第一で

す。次に「痛みの治療」、「機能の回復」があり、「形態の修復」、「皮膚の質感の改善」、最後が「皮膚の色調の調和」の順に治療の優先順位を決めて、治療することにあります。医師にとって「皮膚の色調の調和」は最後の問題ですが、顔にある皮膚の異常な色のアザが原因で、人間は自殺することもあるわけです。特に女性の場合、結婚、その他、人生に大きく影を落とすことが、しばしばあります。しかし、

そうした「色」による障害でもレーザー治療によって、ほぼ解決できると自負しています。あとは、いかに少ない侵襲でレーザー治療をより多くの医療分野に応用していくかが重要なのです。

**各口** 本日は、大変ためになるお話をありがとうございました。ぜひ、私どもの主催する講演会をご活用いただき、レーザー治療の普及にお役立ていただきたいと思います。

大城先生の講演会についてはP91をご覧ください。



「婦人病・不妊症の最新レーザー治療」(日東書院) 1,200円+税



「大城医博のレーザー美容」(日東書院) 950円+税

